

## 新たな価値創出を加速させる開発拠点、7月より業務開始 部門間シナジーとオープンイノベーションの推進

当社は、社内の部門間シナジーと社外とのオープンイノベーションを推進し、革新的なモノづくりを通じて新たな価値を創出する開発拠点「イノベーション&コミュニケーションセンター(Innovation & Communication Center : 以下 ICC)」を川崎本社敷地内に建設しました。6月12日に竣工し、7月より業務を開始します。投資総額は、建設費、試験設備費等を合わせて約64億円です。

当社グループの技術開発において、新たなコア拠点となる「ICC」は、部門間のシナジーを促進するため、異なる部署の従業員同士のコミュニケーションを誘発させる「センターコート」や、発想力を高める「ワイガヤキャンパス」を設けています。

また、自社開発のエアコンを軸として、チラーやエアハンドリングユニットなど、当社にない製品群との組み合わせによる業務用空調システムの研究・検討のための専用スペースや、外部と共同してアイデア検討や試作を行える実験場「アライアンスラボ」を設け、社内外の技術や知識を融合させるオープンイノベーションを推進します。

当社は技術者の発想力、技術力、知識の向上を図るとともに、協創・提携先などと技術・知識を融合させることでイノベーションを促進し、新たな価値創出の取り組みを強化します。



技術開発のコア拠点 イノベーション&コミュニケーションセンター  
(Innovation & Communication Center)

### お問い合わせ先

報道関係：広報 IR 室 <https://www.fujitsu-general.com/jp/contact/news.html>

## 「イノベーション&コミュニケーションセンター」概要

### 特長 1. 社内の部門間シナジーを誘発し、イノベーションを促進

#### ■ 執務エリア（4、5階）のレイアウト

4階と5階の執務エリアは、中央部分に開放感のある吹き抜け空間と4、5階を行き来するための幅広い階段を配置し、コミュニケーションの活性化を目的とする「センターコート」などを設置しました。中央部分の両脇のエリアに執務席を配置し、さらに窓際のエリアは、一人で熟考したり、少人数で論考・精査するための「集中ブース」を置いています。

#### ■ 技術者同士のコミュニケーションを誘発する「センターコート」

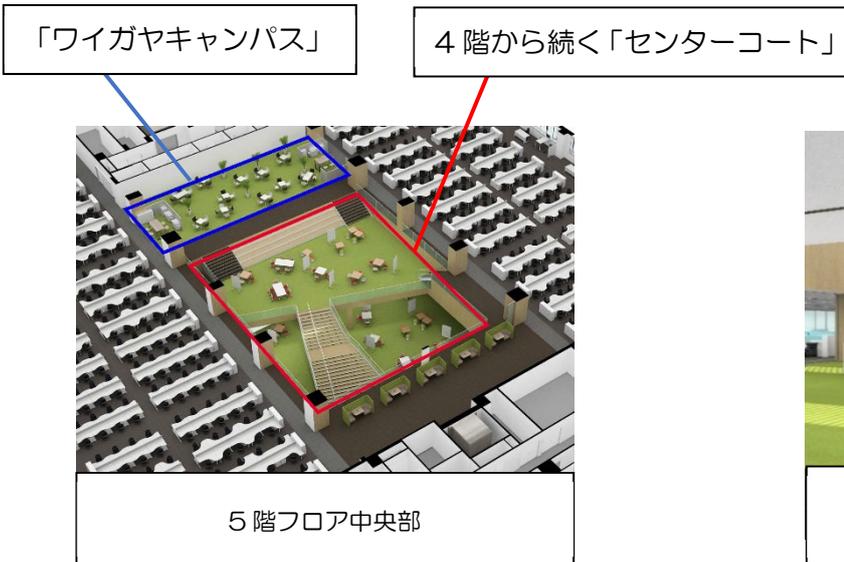
4階の中央スペースおよび5階に繋がる中層階スペースを「センターコート」と名付け、簡単な打合せから数十名の会議まで可能な広いスペースを設けています。

「センターコート」をあえて人が往来する導線上に置くことで、部署の異なる人も話を聞いたり、ディスカッションに参加したりして、新しい発想のきっかけとコミュニケーションの活性化を狙います。

さらに、会議や打合せの参加者が、積極的に発言しやすい環境づくりとして、床面は芝生をイメージした緑、壁面はぬくもりのある木目調とし、リラクゼーション効果や開放感を高めています。

#### ■ 知の共有と発想の場「ワイガヤキャンパス」

「センターコート」の5階部分に隣接する「ワイガヤキャンパス」は、小規模の勉強会や研究成果の発表、大人数を対象にしたセミナーや研修会などの開催スペースで、仕切りを作らない開放的な環境としています。参加メンバーで「ワイガヤ」しながら、知の共有と発想の場として活用します。



### 特長 2. 社内外の知を融合し、オープンイノベーションを推進

#### ■ 社内外の様々な発想を試す実験場「アライアンスラボ」

「アライアンスラボ」は、外部企業等との協創・提携を前提に、社内外の様々な発想を掛け合わせ、イノベーションを推進する実験場です。アイデア検討エリアで発想した製品イメージをすぐ隣の試作エリアで具現化し、より具体的で深い検討を行い短期間でアイデアを「カタチ」にしていきます。

#### ■ 人づくりの拠点「ヒューマンスクエア」

「ヒューマンスクエア」では、外部企業等とのオープンイノベーションで生み出された製品や技術の成果発表、空調機の知識・スキルの修得、社外講師を招いたセミナーなど、アイデアや技術・スキルの継承をはじめとした人づくりの拠点としての活用を期待します。

### 特長 3. 世界各地の設置環境と多様な住環境を再現する多目的環境試験室（2020年3月設置予定）

極寒から高温までの世界各地の設置環境や、多様な室内住環境を再現して、様々な検証やデータ収集・蓄積を行うことができる試験室です。開発プロセス革新と新しいテクノロジーの実用化を促進し、開発期間の短縮と空調機の新しい価値を創出します。

#### 1) 開発プロセス革新

気流、騒音、振動などを可視化することで、設計上流で技術課題解決をスピードアップするとともに、技術者の発想力強化を図ります。

さらに可視化データとシミュレーション技術を組み合わせることにより、原理・メカニズムに基づく理論的な設計を強化し、開発期間の短縮、試作レスを実現します。

#### 2) 新しいテクノロジーの実用化

人の快適性(温冷感、生理現象)に関する原理・メカニズムを解明するため、多様な室内環境を再現し、快適性を究明して、従来の室温コントロールから人を中心とした快適性、さらに生理状態のコントロールによる知的生産性の向上など、空調機の価値を高める研究開発に取り組みます。

### その他

#### ■「健康デザインセンター」

当社は、社員とその家族の健康を会社の財産ととらえ、健康経営を推進しており、「ICC」に「健康デザインセンター」を設置しました。

産業医の診察・面接ルームに加え、軽い運動やヨガなどができるオープンスペースや健康器具（「うんてい」等）を設置し、従業員同士がコミュニケーションをとりながら、体と心をメンテナンスし、気持ちよくリフレッシュできます。



「健康デザインセンター」

#### ■「イノベーション&コミュニケーションセンター（略称：ICC）の概要」

- 建築計画： 2018年4月着工、2019年6月12日竣工  
省エネ・環境を意識した ZEB Ready の先進構造物
- 建築面積： 約 4,800 m<sup>2</sup>
- 延床面積： 約 21,000 m<sup>2</sup>
- 建築規模： 5階建て  
1～2階 試験室、研修室、作業スペース  
3階 最新の設備機器を備えた実験室、作業スペース  
4～5階 執務室、ミーティングスペース、研修スペース  
(4階渡り廊下で空調技術棟へ往来が可能)
- 執務室最大収容人員：約 1,300人
- 建設費： 約 64億円

以上